

力について森克巳が説明した。

3. 「DC ESR における硫黄の移動と酸素分圧あるいはスラグ組成への差異」につき加藤誠が説明した。

4. 「ESR 法のスラグとメタルプール中の温度および電位分布の測定と発熱量分布」について川上正博と山村稔が説明した。

5. ESR用語の統一について

電圧、電流について山村氏が試案を作成することとなった。

6. 次回は 12 月初旬開催予定である。

.....

微量元素の偏析部会

第4回部会 開催日：6月21日。出席者：須藤部会長ほか 26 名。

1. 開催場所 (東京)神田学士会館

2. 議事概要

(1) 今回から実際の研究結果の発表を行なうこととなり、今回は一般に公開して6件の研究発表があった。

(2) 次回は 11 月 26 日に鉄鋼協会で開催することを決定した。

正 誤 表

「鉄と鋼」62 (1976) 10, pp. 1339~1348

「三次元結晶方位分布関数を用いた冷延鋼板の r 値の計算」 北川 孟・片山道雄

頁	行 目	
1339	Synopsis	(誤) $\frac{r(\omega)}{1+r(\omega)} = \frac{2}{\pi^2} \int_0^{\pi/2} \int_0^{\pi/2} \int_0^{\pi/2} \frac{r(\psi, \theta, \phi)}{1+r(\psi, \theta, \phi)} w(\psi, \theta, \phi) \sin \theta d\theta d\psi' d\phi$
		(正) $\frac{r(\omega)}{1+r(\omega)} \dots \dots \dots \sin \theta d\theta d\psi' d\phi$
1340	右 段	(誤) $T_{i1} = \begin{pmatrix} uu_i, pp_i, hh_i \\ vv_i, qq_i, kk_i \\ ww_i, rr_i, ll_i \end{pmatrix} \dots \dots \dots (1)$ (i = 1~48)
		(正) $\dots \dots \dots (2)$ (i = 1~48)
1341	左段 1 行目	(誤) ROE の定義と同様, θ は y 軸まわりの回転とする.
		(正) $\dots \dots \dots, \theta$ は Y 軸まわり $\dots \dots \dots$
1341	左 段	(誤) $-\sin\phi \cdot \cos\theta \cdot \sin\phi - \cos\phi \cdot \cos\phi \dots \dots (4)$
		(正) $-\sin\phi \cdot \cos\theta \cdot \sin\phi + \cos\phi \cdot \cos\phi \dots \dots (4)$
1341	左 段	(誤) $\begin{pmatrix} x'_i \\ y'_i \\ z'_i \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} U_i & V_i & W_i \\ P_i & Q_i & R_i \\ H_i & K_i & L_i \end{pmatrix} \dots \dots \dots (5)$ (i = 1~48)
		(正) $\begin{pmatrix} x'_i \\ y'_i \\ z'_i \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} U_i & V_i & W_i \\ P_i & Q_i & R_i \\ H_i & K_i & L_i \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} \dots \dots \dots (5)$ (i = 1~48)